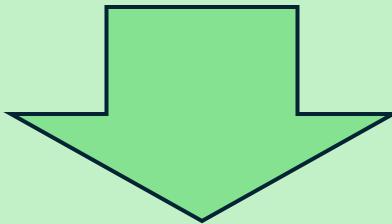


# 日本と北欧にみる ジェンダー格差とその解決策

# 現実に結びつける



世の中に存在している偏見バイアスの  
問題と解決案を繋げる

# 現実問題(男女の偏見)

- ・ 男性は外で働いて稼ぐべき、女性は家事・育児を担うべき
- ・ 男性は論理的、女性は感情的
- ・ 「男なら泣くな」「女の子ならおしとやかに」
- ・ 男の子は強く、女の子は弱い
- ・ 男性は育児休暇を取りにくい
- ・ 女性は昇進しにくく、賃金が低い
- ・ 男性はリーダーであるべき、女性はサポート役に徹するべき

偏見バイアスがある日本とない  
他国との違い（北欧諸国）

ジェンダー・ギャップ指数  世界一位 



アイスランド



# ジェンダー・ギャップ指数とは

政治・経済・教育・健康の4分野における  
男女格差を数値化した指標



一方その頃 **日本** では .....

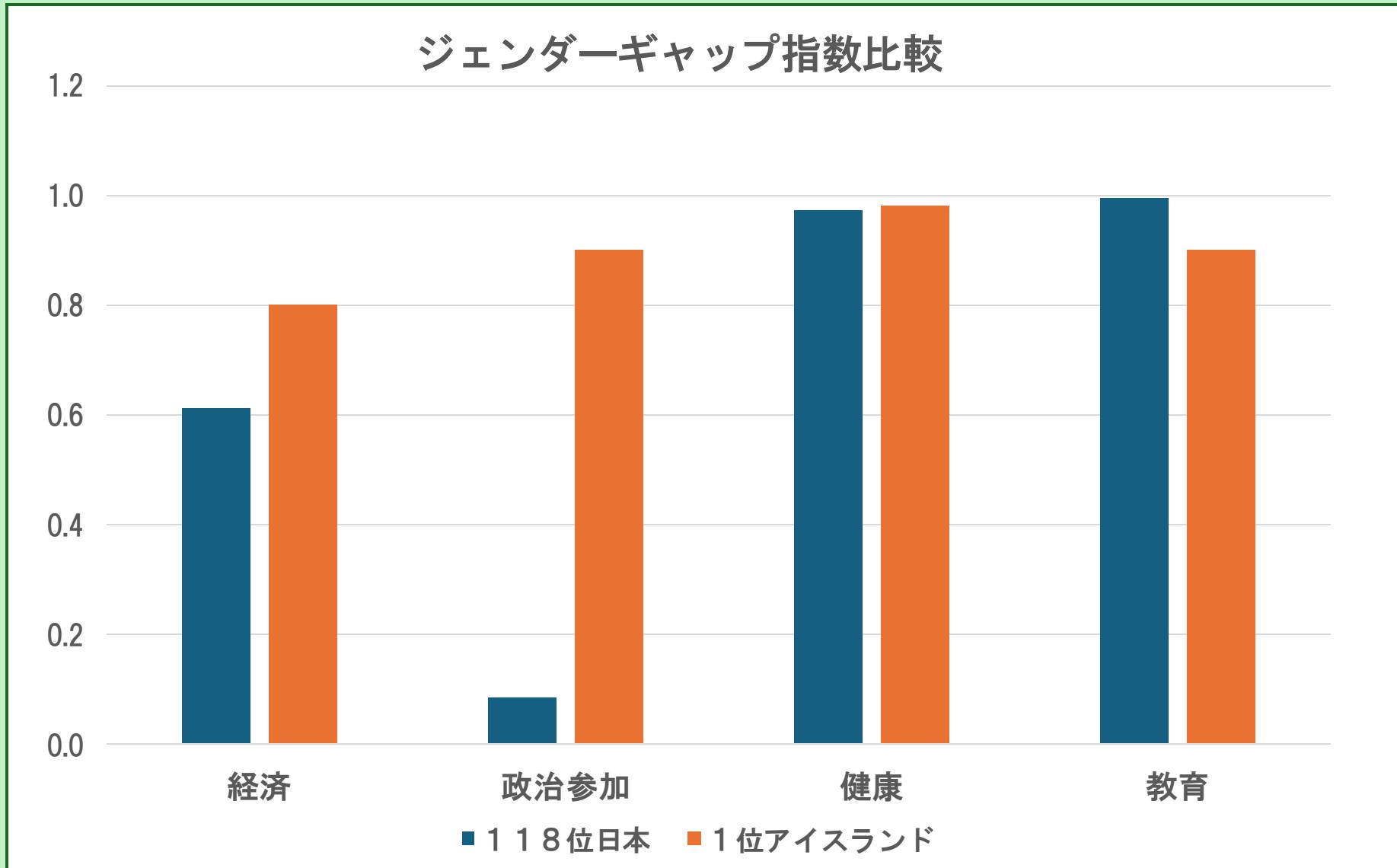
**ジェンダー・ギャップ指数**

**118位 / 148位**

下の下なのだ...



# 日本との比較



# アイスランドのジェンダー・ギャップ解消例

## 政治

### ・クオータ制

男女の割合を一定以上にする制度

企業役員や公共の委員会のメンバーの40%以上を女性とすることを義務付けている

## 経済

### ・男女同一賃金証明法

企業が同じ労働をする男女に同一の賃金を支払うことが義務付けられている

世界で初めて男女の賃金格差を違法とする法律が制定された

## 教育

### ・ヤットリ・モデル

男女でクラスを分け、互いに異なる性の特徴を学ばせ、固定的性役割をなくす教育モデル

例：女の子のクラスには自信をもって意見を述べる力を、男の子のクラスには思いやりや協調性を育てる教育を受けさせる

## 企業

### ・育児休暇制度

母親と父親がそれぞれ6か月ずつ育休を取れるようになり、その間の給料の80%を国が負担する制度

### ・平等賃金認証制度

企業が男女の同一労働同一賃金を実践していることを証明するための制度

# <アイスランドの取り組みから考えた解決策>

## 男女比を完全に揃えた社会シミュレーション

→ 政治・企業・教育機関など、すべて  
「男女比50:50」になるまで自動調整



もし男性が多ければ自動で女性が優先採用される  
👉 男女平等が当然となり自然に活躍の場が広がる

## 男性の育児休暇取得日数を倍にする

→ 女性の家事・育児への負担が減る



夫婦関係が円満に！

子供が就学前から大学まで男女平等を学ぶ

→ 物心つく前から学ばせることで

男女平等の考えが生まれる！

これらの取り組み  
を踏まえて、  
改めて解決策を  
考えてみるのだ！



# 政党への 「ジェンダー平等インセンティブ」 導入

## ● 内容

女性候補者の割合が一定以上の政党に対し政党交付金を加算

## ● 目的

政党が積極的に女性候補を擁立する動機づけ

## ● 効果

女性の政治参加が促進され、候補者層が多様化

若年層やマイノリティ女性の立候補も後押し

## <メリット・デメリット>

### メリット

- ・女性候補を増やす動機になる
- ・若手やマイノリティ女性の政治参加促進

### デメリット

- ・形式的な擁立が起こる懸念
- ・性別が重視されると感じる人も

# デメリットの解決策

## ジェンダー平等と実力主義の両立

課題：「性別重視で不公平」との懸念

- ・必要性

女性候補者の数だけでなく、  
**能力**や**実績**も**評価対象**にする制度

- ・目的

有権者の納得感を高める  
政党の信頼性を向上させる  
実力ある多様な人材の政治参加を促進

要素	内容
評価基準	地域活動、政策経験、専門知識などをスコア化
研修要件	候補者は政策・議会運営等の研修を修了
男女共通評価	性別に関係なく同じ基準で能力を評価
インセンティブの使途	一部を候補者の能力育成に充当
情報公開	候補者の実績・研修歴を公開し透明性を確保

### «効果»

- ・「**性別優遇**」批判を回避
- ・実力主義と多様性の両立
- ・**政治参加の質と信頼性が向上**

# まとめ

## 日本

### ●固定観念

例：男子は仕事・女子は家庭

### ●課題

- ・給料、昇進の格差
- ・育休休暇の不平等

### ●ジェンダー・ギャップ指数

世界118位



## アイスランド

### ●制度

- ・クオータ制
- ・同一賃金制
- ・平等教育
- ・父母の育休制度
- ・平等賃金認証制度

### ●ジェンダー・ギャップ指数

世界1位

日本でも、政党へのジェンダー平等インセンティブ、男性育休の充実、幼少期からの平等教育を進めることで、実力主義と多様性を両立した社会を目指すことができる

# 参考文献

- 男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）
- 【男女平等世界1位】アイスランドと日本の違いは？ 解説します！ | フレフレ Lady
- アイスランドが15年連続「ジェンダー平等世界一」の理由とは？ | まなびなあ
- 男女平等とアイスランド | Guide to Iceland
- ジェンダー平等先進国アイスランド | 成功の秘訣と日本が学ぶべきこと

ご清聴ありがとうございました

